

2023年度 自己評価チェックシートのまとめ

*◎は良くできていた ○は概ねできていた △は努力を要する

*本年度は、休職者1名のため、集計人数は昨年と同じ8名。

*矢印↗は、前年度比20%上昇(2名以上)、矢印↘は同20%下降したことを示す。

単位 人

評価分類		内容	◎	○	△	
I 保育の 計画性	1	園の教育理念・教育目標の理解	3	5	0	
		○園の教育理念に基づいて教育目標について園長や保育者と話し合う	3	4↗	1	
	2	幼稚園教育要領の理解	0	5	3	
	3	園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成する	3	5	0	
		○園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	4↗	4	0	
	4	○指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	2	5	1	
		○指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものにする	3	5	0	
	5	環境の構成	○安全で清潔感のある環境を構成する	3	5	0
			○幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	2↗	5	1
			○幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする	2	5	1
			○遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意する	3	5	0
			○楽しい雰囲気のなかで安心して遊びこめる環境を構成する	3	5	0
			○幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成する	2	6↗	0
			○幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をする	3	5↗	0
			○園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす	1	4↘	3↘
			○幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする	3↗	5	0
			○季節の変化に応じた環境の構成をする	3	5	0
		○異年齢の幼児が自然に交流できるような環境の構成をする	5↗	3	0	
	6	評価・反省	○自分の保育についての評価・反省をいくつかの観点から行う	2	6	0

			○自分の保育を評価・反省することで、次の保育にいかす	3	5	0
Ⅱ 保育の在り方、 幼児への対応	1	健康と安全への 配慮	○朝の登園時には特に視診を大切にし、子どもの体調が悪くないかを確認する	6	2	0
			○けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に見てもらうなど適切な処置を行う	7↑	1	0
			○園内に危険な個所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	6	2	0
			○園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	5	3	0
	2	幼児理解	○一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配る	5	2	1
			○幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめる	7	1	0
			○個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	7↑	1	0
			○幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	7↑	1	0
			○幼児たちが今、興味や関心をもっていることを知る	5↑	3	0
			○幼児の理解のために家庭との連携をとる	6↑	2	0
	3	指導とかかわり	○幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	5	3	0
			○幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使う	4	3	1
			○幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしない	5↷	2	1
			○善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培ううえでのモデルとなるように心がける	5	3	0
			○幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がける	7	1	0
			○幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	6	2	0
			○幼児が遊びを深めていくための、適切な援助をするように心がける	5↑	3	0
			○幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫する	5↑	3	0
			○幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	6	2	0
○幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける			6↑	2	0	
4	保育者同士の 協力・連携	○幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしない	8	0	0	
		○クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするように心がける	7	1	0	

			○クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う	4	4	0
			○幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がける	7	1	0
			○他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うような、さまざまな工夫をする	3	5	0
Ⅲ 保育者としての資質と能力	1	専門家としての能力・姿勢・義務	○幼児の性格や個性を把握し、幼児の考えや感じていることを理解する	5↑	3	0
			○保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める	4↑	3	1
			○保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がける	4↑	3	1
			○幼稚園には自分自身のプライベートな生活をもち込まないようにする	5	3	0
			○幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする	7	1	0
			○服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がける	6↑	2	0
			○職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る	7	1	0
			○園の重要書類は持ち出さない	6	2	0
			○締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守る	3	3	2
	2	組織の一員としての在り方	○教職員全員で一つのチームであることを自覚する	7	1	0
			○他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるよう努める	3↷	5	0
			○子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする	7	1	0
			○当番や役割による仕事は確実に実行	2↘	4	2
			○園や保育者に関することについては、軽はずみに他に話さない	6	2	0
	3	保育の楽しみ・喜び	○幼児の成長を自分の喜びと感じる	8	0	0
○幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じる			6	2	0	
Ⅳ 保護者への対応	1	情報の発信と受信	○保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をする	4	4	0
			○保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	4	4	0
	2	守秘義務の遵守	○保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従う	4	4	0
			○個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しない	8	0	0
	3	対応上のマナ	○日常生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにする	4	3	1

	一・心がまえ	○電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がける	4↑	4	0	
		○保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	3↷	5	0	
	4	クレームへの対処の仕方	○保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談をする	4	4	0
			○クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処する	5	3	0
V 地域の自然や社会との かかわり	1	地域の自然・人々とのかかわり	○地域の人々と親しくあいさつや会話を交わすように心がける	3	5	0
			○地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	4↷	1	2
			○地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をする	1	2	5
	2	小学校との連携	○小学校の教育内容について理解するよう努める	2	3	3↑
			○地域の小学校の行事や公開授業に関心をもつ	1	5↑	2
	3	子育ての支援と地域への開放	○子育ての支援や地域開放について具体的な形や内容を理解する	1	6	1
○子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う			0	5	3	
VI 研修と研究	1	研修・研究への意欲・態度	○研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する	2	3	3
			○自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う	3	4	1
			○自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	1	4	3
	2	保育者としての専門性に関する研修・研究	○幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う	0	5	2
			○記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う	1	6↑	1
			○教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	1	5↑	2
			○保育記録に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う	1	7↑	0
			○幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行う	0	4	4
			○保護者への対応に関する研修・研究を行う	0	2	6↑
			○地域社会との交流に関する研修・研究を行う	1	2	5
	3	今日的課題に関する研修・研究	○アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解する	2	6	1
			○障がいのある幼児の理解と対応について研修する	0	4↷	4

		○預かり保育や子育ての支援について研修する	0	3	5
		○幼小連携の必要性や具体的方策について研修する	1	3	4↑
		○危機管理の必要性と対応について研修する	1	6↑	1

表の中にある数字は実数です。

2023年度 評価のまとめ

2024. 3. 27

総評

コロナ禍の4年を開けて、徐々に「元」の保育に戻り、保育者の中にも、また、園児の中にも「制限」や「縛り」等、不自由さが取れてきた1年であった。そのことで、保育者の中にも、子どもたちに向かう姿勢に、ゆとりやさしさが多く持てるようになった。これが、今回の、自己評価の中でも顕著に表れており、昨年比では、高評価となる項目が、多数出ている。厳しい時代を経てきたからこそ、改めて、気が付きが持てることもたくさん出ているようである。

個人としての反省であるため、個々が1年関わってきた園児や保護者、家庭との関連性で、項目の中に変化がみられているように思う。めぐみの教職員は皆誠実で、真摯に保育に向き合っているために、自分自身の評価に関しては厳しめに付ける傾向があるように思う。

I 「保育の計画性」についての評価結果及び改善策

* 高評価に伸びは見られないが、少しずつ、改善に向けての意識は表れてきている。幼稚園において、教育課程の編成は、実際の園児の様子と乖離したものでないようにならなければならない。また、時代ごとに求められてくる要請にも応えているものでなければならない。職員の中では、この点での疑問、不安を訴えている内容が見られた。また、「キリスト教幼稚園」として向かい合うべき課題についても、まだまだ、共通認識が必要である。

改善策

- めぐみ幼稚園として、どのような保育を行うかについて、時間をかけての話し合いが必要である。また、ほかの園での事例の研究などを通して、教育課程の充実や共通理解をもてるようにする。
- とりわけ、園独自で取り組み可能なことを、具体的に洗い出すことが必要になってきている。

II 「保育の在り方、幼児への対応」についての評価結果及び改善策

* 高評価が、一定に安定している項目である。保育者の真摯な保育に対する姿勢が、ここには一番表れている。地域の方々、保護者のご家庭からも、良き評価をいただいているゆえんである。

受け入れている園児一人ひとりの特性にもよるが、最大の努力をしている保育者の姿がそこにはある。

◇改善策

- 日常的に園児の体調の管理、身の回りの危険を洗い出す。危機管理についての学習も継続していく。園での保育活動の系統性を考え活動を行う。そのための具体的なシラバスを考えていく。
- 今回、多くの項目で、保育者の意識の変化が見られた。高止まりの水準をどのように維持していくかが問われてくる。

III 「保育者としての資質と能力」についての評価結果及び改善策

*
職員の職歴の時間の差によって、各自の思いは異なる項目である。しかし、どの先生も、子供の成長をともに喜び、温かな目で、子どもたちを見つめていることがわかる。「保育」のプロとしての姿がそこにはあると思う。

◇改善策

- ・個人の資質の向上の内容に、保育者集団としての取り組みを反映させたい。めぐみ幼稚園としての研究・研修の課題を設定して年間を通して取り組みをすることも検討したい。
- ・個人の資質の問題に終わらせることなく、お互いが高め合う職場の雰囲気醸成が必要である。

IV 「保護者への対応」についての評価結果及び改善策

・こまめな対応を、各職員は続けている。職員間での相互のアドバイスや共通理解も、良い成果を生み出してきてはいる。

◇改善策

- ・クラスだより、めぐみの子の内容の充実と共に、個人個人に対する連絡の仕方を丁寧に、わかりやすく工夫をしていく。
- ・各担任は、こまめな電話連絡、送り、迎えの時間で、家庭との連絡を密にしている。大切な点と思う。

V 「地域の自然や社会とのかかわり」についての評価結果及び改善策

*これからは、より大きな関わりを、地域と持てる可能性は出ている。ある程度の方向性を持ちつつ、教職員全体で、取り組み方を示していきたい。

◇改善策

園児の世界を広げていくために、従前まで実施してきた内容を更に高めて、子どもたちに還元していく工夫が必要である。「マナー化」していくのではなく、常に新しい発想が、必要である。

VI 「研修と研究」についての評価結果及び改善策

*多くの研修を受けてきた年であった。その内容が、現場に還元される方策が、まだ十分には築かれてはいない。「研修ありき」ではなく、「何のためか」を知り、自動的な取り組みとしていく必要がある。

◇改善策

- ・対面での研修も再開され、職員には多くの研修を受講していただいた。その成果が保育に還元されるような手はずを整えたい。
- ・今後求められてくる研修受講の積み重ねを見通し、年度初めから研修の計画を立てていく。

2023年度 関係者評価委員会

